

第2回福島市中心市街地将来ビジョン検討委員会 議事録

- 1 日 時 平成30年7月5日(木) 10:00～12:00
- 2 場 所 福島テルサ 3階 あづま
- 3 出席者 佐藤 滋 委員長、小林 敬一 副委員長、西田 奈保子 委員、
西内 みなみ 委員、石井 浩 委員、小林 勇一 委員、
引地 洲夫 委員、小河 日出男 委員、高橋 美奈子 委員、
平子 健 委員、山本 克也 委員

オブザーバー

堀田 洋一(代理:外川 泰司)、尾形 宗昭、武藤 泰典

4 内 容

(1) 開会

(2) 議事

- ①第1回検討委員会の振り返り
- ②今後のまちづくりの検討項目について
- ③現在の高次都市機能の配置について
- ④高次都市機能の配置検討について
- ⑤次回の検討項目について

(3) その他

○再開発の動向について

(4) 閉会

5 概 要 議事内容について事務局説明後、質疑応答、意見交換

★議長あいさつ要旨

本検討委員会では、年内に結論を出すため、忙しい会議であるが、じっくり議論し、しっかりした将来ビジョンをつくり、次に進められるようにしていただきたい。

本日は、福島駅東口市街地再開発準備組合の方に再開発事業の動向について説明をいただくことになっている。

事務局が準備した資料に基づいて議論し、次回の成案に向けて基礎になるものとしたい。

6 委員の主な発言

①第1回検討委員会の振り返り

委 員

中心市街地の概念はどの範囲を示すのか。

事務局

将来ビジョンは、中心市街地活性化基本計画の範囲を基本としている。

委員

福島駅周辺の中心市街地と合わないのではないか。

事務局

将来ビジョンとしては、市役所本庁舎の周辺も含まれているので、図面だと本庁舎から渡利の一部まで含まれている。

委員長

福島市の中心市街地は範囲が広い、その中でどのように再編するかがここで与えられた役割である。

後ほどイメージがでてくるので、そのときに議論をお願いしたい。

委員

商工会議所主催のワークショップから、一部の高校生において MAX ふくしまに安心感があるという意見があり、そのような施設が高校生には必要だと思う。

女子高校生からは、パセオ通りは飲み屋があって夕方以降は怖いという意見もあった。

私たちが気付かないことも高校生は気付くので、若者の意見も反映していく必要がある。

委員長

若者の意見は、大変勉強になる。

②今後のまちづくりの検討項目について

③現在の高次都市機能の配置について

④高次都市機能の配置検討について

委員長

将来ビジョンの中で、市が示した基本的な方針、検討項目について意見をいただき、都市機能の集積と併せ、周辺に分散立地している公共施設の全体的な整備方針を検討している福島市公共施設の戦略的再編整備検討委員会と一緒に高次都市機能の新たな将来ビジョンを検討することになっている。

意見をいただいて、その地域になくてはならないものと福島駅前にあった方が望ましい施設を検討し、集積された都市機能について具体的な（案）を次回、事務局で提示いただく。

副委員長

今回の事務局（案）に向けて、意見したい。

まず、再開発事業にどのような機能の位置づけができるのか考えなくてはならないだろう。

1つは商業機能を中心に、経済的に自立したものとするか。

2つ目は公共施設を中心として市が支えていくものとするか。

3つ目は、中間で考えていくのか。

商業においては、国際化に向け、ブランド品を中心としたモール等を形成すべきかどうか考えなくてはならない。

公共施設に関しては、コンベンションという言葉が出てきているが、ここでのコンベンションとは一体何だろうかということが1つ大きなポイントであろう。

コンベンションのような集客施設がありさえすれば、商店街が成り立つというわけではない。

国際化の中で商業も変革を求められており、コミュニケーション型の商業に変わっていく中で、地元としてどういうものが必要なのか考えていかなくてはいけない。

コンベンションにおける会議については、大学と市民、大学と企業が相互に関係を持ち、施設を生かせるプログラムを次々と生み出すことができれば、魅力的なものとなろう。

整備された駅前通りについては、北側には流れやすいが、南側は駅からの連結が悪い。その改善を図りながら、さらに回遊性を高めるため、駅、駅前通り、モール、県立医科大学新学部を軸で連携させたまちをつくるべきである。

まちというのは、今の時代何をつくればうまくいくという定石はない。しかし、うまくマネジメントしてくれる人がいればうまくいくかもしれない。

先導する人達を育てていける仕組みをつくるべき。

委員

コンベンション機能があれば中心市街地の活性化に繋がるかについては、需要の見込みやライバル都市、既存施設の稼働率、市内の宿泊者統計を見ながらコンベンション機能について検討してほしい。

きれいになった駅前通りの利活用を考え、早い段階から、賑わい創出の仕組みづくりを連携して行うべきである。

高次都市機能の立地場所について、市が想定している敷地条件を満たす場所はどこなのか。

国際的広域的機能については、福島市とその周辺市町村との関係が課題になる。

周辺の市町村と意見交換を行って、情報共有をする必要がある。

事務局

福島市公共施設の戦略的再編整備検討委員会で市民会館、公会堂、図書館、学習センター、消防署等について検討を行っている。

その中で、市役所西庁舎用地はあるが、福島駅周辺となると大きな土地がないのが現状である。

委員

商工会議所は、賑わいをつくるため、様々なイベントを実施している。

駅前通りはアーケードがなくなり、歩行者天国について検討している。

コンベンションは、つくるだけでは集客は見込めないなので営業努力も必要である。

青写真を描くのであれば福島市らしいキーワードが必要である。

委員

福島市には、コンサートを開く場所がないので、郡山市や他の場所で開催されている。

文化を発信する場所がないことが問題であるため、コンベンションは必要になる。

まちづくりは、官だけでは絶対にできないので、今の民の動きについて尊重していくことが必要である。

福島市の花と果物と温泉、住みよいまちや健康なまちなどのキーワードが抜けてしまっている。

ハードだけでは駄目なのでソフトを重要視しなければならない。商業施設の誘致や補助を行うなど、様々な視点からまちづくりを行うべきである。

委員

サッカー場は、郊外につくられるものと考えていると思うが、ヨーロッパでは、まちの中心にサッカー場がある。大きな建物の下に、歯科医院や病院、フードコートがあって、集会所や会議室もある。その上、コンサート会場としても利用している。

本社機能を有する産業を誘致し、社員と家族と一緒に移住するための対策として、教育の充実が必要である。

委員

コンベンションホールは絶対あった方がよいが、宿泊の問題がある。

まちなかにホテルは増えないと思うので、飯坂、土湯、高湯温泉と連携することによりコンベンションホールを活用できる。

再開発事業は最大のチャンス、行政と連携してよい計画にして、これからの子供達に自慢できる福島市、誇れる福島市になってほしい。

委員

将来ビジョンを考えた時、福島市の強みは何なのかを共通言語として持っていないと方向性を失ってしまうのではないかと。

これまでの議論で出てきたように、福島市は教育の質の高さと、健康寿命をこれから伸ばしていくことが必要になる。教育と言った時に、子供だけではなくて、シニアの教育も含まれている。

中央学習センターの建て直しについて検討しているようだが、生涯学習センターについては、稼働率が200%で教室の奪い合いになっている。

大学はまちを活性化させるためのマネジメントをする力を持っているので、福島市の持つ2つの強み、教育の質の高さ、健康寿命を支える様々な医療機関や健康サービスについて、官民学連携で考えていきたい。

三越の紙袋がひとつのステータスであるように、中合で買って来たということが市民にとってステータスになっていた。

そういったステータスを失うことのないよう、商工会議所や皆さんと一緒にブランドとなる商品等を考えていきたい。

福島市への移住を考えた場合、例えば、まちなかに温泉を引いてくる等の大胆な発想も必要なの

ではないか。

委員

コンベンション機能があれば集客は増え、交流人口が増えるのは、間違いだと思う。

市内にある会議室とコンサートホールの稼働率や収容能力について知りたい。

新たにコンベンションを設置するなら、集客の見込みを踏まえて設置することが必要だと思う。

また、民間がマネジメントして運営しなければならない。

中心市街地の活性化を検討する上で、福島の顔として、交流人口拡大を目指すのか、あるいは市民の為のものをつくるのかによって方向性が変わってくると思う。

事務局

コンベンション、大ホールとしては7つの公共施設を把握している。福島テルサ、コラッセふくしま、パルセ飯坂、県文化センター、こむこむ、音楽堂、公会堂である。

展示場は、コラッセふくしまや県文化センターの展示場、こむこむ企画展示室等をコンベンション施設として把握している。その稼働率等をまとめたものを後日、提供する。

コンベンションを検討する上で、自治体のアンケートとヒヤリングを福島県立医科大学と福島大学を対象に行った。また、条件的に本市で開催できなかった学会がある。平成26年から平成27年で16件の学会が本市で開けなかった。内5件が1000人以上の学会であったが会場がないとの理由で開催できなかった。

委員

商工会議所で実施した高校生を対象にしたアンケートは重視しないといけない。

全国のマーケティング学会に参加していた時に、デパートとしての機能を失った例として、福島市が挙げられた。福島市の駅を中心とした中心市街地を見直すのは、今回が千載一遇のチャンスである。

このチャンスを逃してはいけない。また、大原総合病院との連携が必要である。

行政と行政以外が一致して進めることができれば、再編は可能である。

委員

コンベンション機能を福島駅の方に強化していくことと、閉館してしまった公会堂の代替え機能について考える必要がある。どのようなコンベンション機能を目指すのかは、もう1つの福島市公共施設の戦略的再編整備検討委員会で議論の焦点になっている。

福島駅前通りは県に非常に綺麗な整備をしていただいて、よい道路空間ができた。それと併せてパセオ通りやレンガ通りといった道路空間があり、公共施設の再編による機能配置によって、それを結ぶ軸で賑わいのあるまちにしたい。福島市は、まちにわくわく、どきどき感がないとよく言われる。新しくなった福島駅前通りとかパセオ通り、レンガ通りで大道芸やコスプレなどのストリートパフォーマンスのようなソフトについても将来ビジョンの中に盛り込んでもいいと思う。

委員長

コンベンションという言葉には、幅がある。会議という意味から、大規模な展示施設を含んだも

の、東京ビックサイトなどがある。公共施設の戦略的再編整備検討委員会では、焦点を絞って、持続可能で経営がきちんと成り立つもの、市民も一緒に使えるものということもキーワードとして意見が出ている。

福島市の強みは、街路がきちんとしていることである。迷路的なわくわく感はないが、城下町として奥行きがあり、街路が整備されていることで、見通しがよい。

例えば、今注目されている低速電動コミュニティバスによる市内観光、巡回の取組みなども重要だと思う。

委員

福島市は周りを見ると自然が見える。この自然を生かしてほしい。

委員

福島駅を降りると、最高のさくらんぼが売っていないし、福島市のお菓子も売っていない。今までフルーツのお菓子をつくっても、1回で終わってしまう。継続しないと意味がない。

まちと企業の連携が大事である。

果物の陳列においては、売れ残ったものは市で買取るなどの方法を検討すべき。

副委員長

コンベンションは大規模なものから中小までであるが、企画運営次第で生かしていける。また、情報と結びつけることによって成り立つ。

これから生み出す市内の様々な機能がどのように結び合って波及効果を及ぼすのか今後検討していただきたい。

福島市は、これから何を成長産業として捉えていくのか。少なくともこれまでは、郊外には多くの工業団地が形成され、工業都市でもある。大企業の方をいかに中心部に引き寄せられるかも重要だと思う。

また、週末にまちに引き付ける力を考えると、豊かなナイトライフ形成の観点も考えておくべきかもしれない。単に飲みに行くだけではなくて、そこで新しい文化や流行をつくるぐらいの気持ちがあっても良いのでは。

これから、まちが発展していくためには、先進性が大事である。